

令和5年度の取組事例

流域プロジェクトの対策メニューと令和5年度の取組項目

対策メニュー	事項	☆：実施予定=R6以降実施する予定の取組 ★：新規実施=R5に新たに実施した取組 ○：継続実施=R4以前から実施しており、今後も継続して実施していく取組（例：防災教育、水防訓練、広報活動など） ◎：拡大実施=R4以前から実施しており、今後も範囲を拡大して実施していく取組（例：まるごとまちごとハザードマップなど） △：協力=他機関が主体となる取組を補助・協力する取組 ㊦：実施完了=実施が完了した取組 ー：対象外=実施対象外の取組 ◆：脱却=実施予定だったが、今後実施する見込みがなくなった取組	取組機関																											
			三重・京都圏域ブロック					奈良圏域ブロック				府県				水資源機構	森林研究・整備機構	国						鉄道会社			日本防災士会			
			津市	名張市	伊賀市	笠置町	南山城村	宇陀市	山添村	曾爾村	御杖村	三重県	京都府	奈良県河川整備課	奈良県砂防・災害対策課	木津川ダム総合管理所	森林整備センター 陸整備局	近畿北	津地方気象台	奈良地方気象台	淀川ダム統合管理事務所	木津川上流河川事務所	紀伊山系砂防事務所	近畿農政局 農村振興部	東海農政局 農村振興部	西日本旅客鉄道株式会社	近畿日本鉄道株式会社	伊賀鉄道株式会社	三重県支部	京都府支部
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策																														
洪水氾濫対策																														
・河川改修	築堤・護岸工、河道掘削、河道拡幅、バイパス水路整備、堤防補強（堤防天端の保護、裏法尻の補強）、遊水地整備、橋梁架替、堰改築、災害復旧（河川）	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・河川の適正な維持管理	樹木伐採、河道の維持掘削、浚渫、許可工作物の点検、巡視の実施及び専用車への適正な運用の指導、橋梁点検に基づく維持管理、土砂堆積状況等の把握	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
・河川管理施設の長寿命化	排水ポンプオーバーホール等	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・土砂のストックヤード整備	河川沿いストックヤードの整備	-	-	○	-	-	△	-	-	-	-	-	★	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・防災拠点整備、重要施設の移転	防災拠点の整備、重要施設の移転の検討、防災拠点の整備、重要施設の移転	-	-	-	-	-	☆	☆	-	-	-	△	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・浚渫工事における河床堆積土砂の受け入れ	浚渫土砂の受け入れ先確保	-	-	○	-	-	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
内水氾濫対策																														
・下水道（雨水）管渠の整備	雨水管理総合計画に基づく計画的な下水道施設の整備、既存ストックの活用・機能保全強化	-	-	-	-	-	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・下水道等の排水施設の整備、雨水ポンプ増強	排水ポンプ施設の設置、排水路の整備、可動式排水ポンプの導入	-	-	-	-	-	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・排水施設の耐水化	施設の耐水化計画の策定、排水施設の耐水化	-	☆	-	-	-	☆	☆	☆	☆	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・下水道吐口の耐震化	下水道吐口の耐震化計画の策定、下水道吐口の耐震化の整備	-	-	-	-	-	☆	☆	☆	☆	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・雨水公共下水道事業の整備	公共下水道事業耐水化の整備	-	-	○	-	-	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・下水道の機能高度化	下水道の機能高度化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
土砂災害対策																														
・砂防事業	砂防堰堤、山腹工、床固工	-	-	-	-	-	-	-	-	○	☆	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
・避難路、避難場所の安全対策の強化	急傾斜地崩壊対策施設の整備、地すべり防止施設の整備	-	-	-	-	-	☆	☆	-	-	☆	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・治山事業	谷止工、山腹工、床固工、流木・土砂の流出抑制対策、災害復旧（治山）	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流水の貯留機能の拡大																														
・ダム建設	川上ダム建設及び管理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	㊦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・既設ダムの機能維持	既設ダムの堆砂除去	-	-	○	-	-	△	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・貯留施設の低水管理や事前放流	ダムの低水管理や事前放流	-	-	○	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	
・利水ダムにおける事前放流の実施、体制構築	事前放流の操作規則・実施体制構築、ダムの事前放流の実施、予測精度の向上、放流施設の改良	-	-	○	☆	-	☆△	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
・効果的な事前放流の実施	予測精度の向上、放流施設の改良	-	-	○	-	-	△	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流域の雨水貯留機能の向上																														
・雨水貯留施設の整備	雨水貯留施設の整備、各戸貯留の促進	-	-	-	-	-	-	☆	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・田んぼダムの整備	田んぼダムに関する調査、農業関係者対象の田んぼダム説明会の開催、田んぼダムの整備	-	○	-	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・流出抑制施設の整備	透水性舗装（車道・歩道・駐車場など）の採用、雨水浸透ますの整備、公園緑地の整備	-	-	-	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

目次

名張市	3
笠置町	5
山添村	9
御杖村	11
三重県	14
奈良県	24
水資源機構関西支社 木津川ダム総合管理所	27
津地方气象台	35
奈良地方气象台	35

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター近畿北陸整備局	37
伊賀鉄道株式会社	39
国土交通省 近畿地方整備局 木津川上流河川事務所	42
国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所	61
日本防災士会 奈良県支部	64

取組事例 (市町村)

取組事例 (名張市)

被害対象を減少させるための対策

〔 災害危険区域や建築制限の指定を受けた区域の整備
立地適正化計画の策定
『名張市立地適正化計画策定検討委員会で防災指針を含む立地適正化計画について検討を実施』 〕

【主な整備内容】 名張市立地適正化計画(素案)第6章防災指針 抜粋

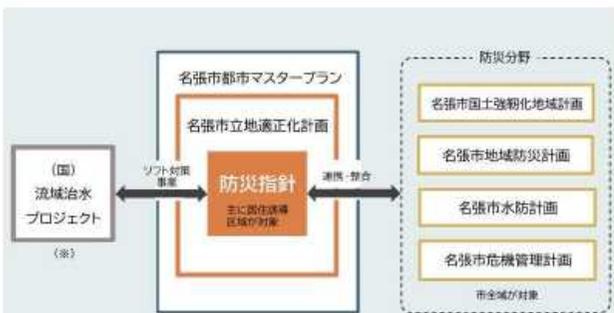
1. 防災指針とは

防災指針とは、頻発・激甚化する自然災害に対応するため、2020(令和2)年6月の都市再生特別措置法の改正により定められた「居住誘導区域にあっては住宅の、都市機能誘導区域にあっては誘導施設の立地及び立地の誘導を図るための都市の防災に関する機能の確保に関する指針(都市再生特別措置法第81条第2項第5号)」のことで、本計画では、誘導区域を設定して居住や都市機能の誘導を進めていこうとしています。誘導を図るためには都市防災の視点を併せ持ち、コンパクトで安全なまちづくりを推進していく必要があります。そのため、居住誘導区域等(都市機能誘導区域を含みます。以下同じです。)から災害リスクの高い地域を原則除外するとともに、当該区域に残存する災害リスクに対しては防災指針を定め、計画的かつ着実に必要な防災・減災対策に取り組むこととします。

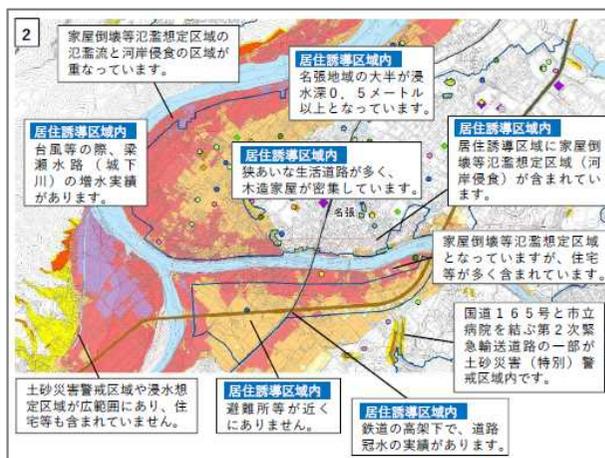
今後も激化が見込まれる水災害(洪水災害及び土砂災害)を中心に、主に居住誘導区域内及びその周辺区域の災害リスク分析を通じて課題を整理し、リスクを回避・低減するための取組方針や防災まちづくりの目標、取り組んでいくべき必要な防災・減災対策を示します。

〔防災関連計画等との位置付け〕

本防災指針は、市の各防災関連計画との連携・整合を図ります。また、国が進めている流域治水プロジェクトのソフト対策事業にも位置付けられています。



※流域治水プロジェクトとは、河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、河川流域(氾濫域も含む)全体のあらゆる関係者が共同して流域全体の水害を軽減させるための、ハード・ソフト一体となった事前防災対策の取組のことで、



○河川改修(名張かわまちづくり一体型浸水対策事業)

木津川上流域ダム群による洪水調節とあわせて河道改修(名張川引堤及び河道掘削)を、地域と連携した「かわまちづくり」の取組とともに推進します(『淀川水系河川整備計画』)。また、洪水被害を軽減するため個別避難計画(※)作成等の取組も合わせて、ハード・ソフトが一体となった事前防災対策(淀川水系流域治水プロジェクト)を地域や関係機関と連携して進めます。

(実施主体) 国、市など

※個別避難計画とは、災害時の避難に特に支援が必要な方(避難行動要支援者)一人ひとりについて、災害が発生した際にスムーズに避難支援を行えるよう、どこに避難するか、誰が避難を支援するか、どのような配慮が必要になるかなどをあらかじめ決めておくものです。

【参考】名張川河川改修の整備効果(浸水深50cm以上)



凡例: 高頻度(1/10) 中高頻度(1/30) 中頻度(1/50) 中低頻度(1/100) 低頻度(1/150) 想定最大規模

出典: 国土交通省近畿地方整備局木津川上流河川事務所「リスクマップ」より一部加工

実施主体
担当部署

名張市都市整備部
都市計画室

R5年度
進捗状況:○

取組概要

- ・名張市立地適正化計画策定検討委員会で
の検討。
- ・庁内、議会、都市計画審議会での中間報告。
- ・国土交通省中部地整・三重県協議。
- ・地域説明会・パブリックコメント実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

- ・案の報告・説明において、対象ごとへの説明
の仕方の工夫、誤解を受けやすい部分の丁寧な説明を行った。

取組による効果

- ・特に防災面において外部の専門委員による
意見を反映した案を作成することができた。
- ・各所での報告・市民への周知を図ることが
できた。

活用可能な制度等

- ・都市構造再編集中支援事業 等。

取組事例 (笠置町)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 広域避難計画の策定
『災害時等における相互支援に関する協定』 〕



【協定内容】 ※一部抜粋

- ・ 避難者等の一時的な受け入れ
- ・ 飲食料等の提供及び支援
- ・ 災害復旧に必要な資機材の一時貸与
- ・ 災害対策や復旧活動等への職員派遣

災害時等における相互支援に関する協定締結式



笠置町長



和東町長



南山城村長

実施主体
担当部署

総務財政課

R5年度
進捗状況:★

取組概要

相楽東部三町村(笠置町・和東町・南山城村)において、災害時等の場面での協力関係を明文化するため災害時等相互支援協定を締結したものの。

取組内容の工夫点・課題・留意点

ねらい:相楽東部三町村では、既に災害時等において協力関係が構築済みであったがそれらを明文化。

留意点:協定締結式。

(11月30日 和東町体験交流センターにて)

取組による効果

これまでも災害時等において相互での協力関係は構築されてきたが、明文化するものがなかったため本協定書により明文化。

また、避難者等の受け入れ等も明文化され地域住民の安心・安全に寄与。

活用可能な制度等

特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:笠置町】

課題対応:R

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土砂災害防止月間(6月)等における広報活動、防災訓練を実施
 防災訓練の実施

『町内自主防災組織と笠置町の共催による防災訓練の実施』



【訓練内容】

- ・ 初期消火訓練
- ・ 給食給水訓練
- ・ 防災知識醸成訓練
- ・ 情報伝達訓練
- ・ 救出救助訓練



初期消火訓練



給食給水訓練



救出救助訓練



知識醸成訓練

実施主体
担当部署

総務財政課

R5年度
進捗状況:★

取組概要

笠置町で初発足した自主防災組織との共催による防災訓練を実施することで、地域防災力の向上と各防災機関との連携強化を図ることを目的に実施したもの。

取組内容の工夫点・課題・留意点

工夫点: 消防や郵便局にも訓練に参加要請
 日本防災士会京都府支部長からの
 激励メッセージ披露。
 課題: 高齢化に伴う防災活動等への限界。
 留意点: 組織発足8月、防災訓練11月。

取組による効果

自主防災組織が町内で皆無だったため、本組織が発足したことにより地域防災力の向上が期待される。本組織が他の地区においてモデルとなることで、追随しての自主防災発足という機運が醸成される。

活用可能な制度等

特になし。

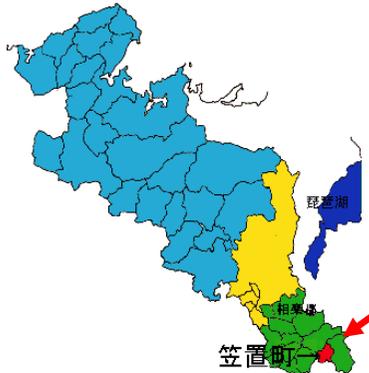


グリーンインフラに対する取り組み

魅力ある水辺空間・賑わい創出

『木津川河川空間のオープン化に向けた社会実験』

【主な実施内容】



【京都府相楽郡笠置町】



【笠置キャンプ場(駅徒歩約5分)】



社会実験を実施します!

笠置キャンプ場での営業活動に対する民間事業者や利用者のニーズ、営業活動のための条件などを検証するため「河川空間のオープン化」に向けた社会実験を実施します。

実施期間 2022.10.1 (土) ~2023.9.30 (土) 9:00~17:00
実施場所 笠置キャンプ場 下流エリア

- イベント情報
 - 10/1 (土) ~10/2 (日)
 - RE-SOCIAL (期間限定サービス、どて着、唐揚げドッグフード、キャンプギア (豪華レジャー製品))
 - 10/1 (土) ~10/2 (日)
 - アウトドア (カヌー、アウトドア用品の展示・販売)



【問合せ】笠置町木津川(河川)整備協議会 (事務局:笠置町商工観光課) TEL:0743-95-2327
※雨天や河川の増水、新型コロナウイルス感染症の感染状況の推移等により、中止する場合があります。中止の場合は、営業中止にてお知らせいたします。



【取組みの様子】

実施主体
担当部署

商工観光課

R5年度
進捗状況:○

取組概要

笠置キャンプ場の利活用のあり方を検討するため、一定期間(R4.10.1~R5.9.30)に当該区域へ民間事業者の営業活動を可能とする社会実験に取り組むと共に、キャンプ場利用者、笠置町民にアンケート調査を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

出店内容は「町及び周辺地域の地場産品を活用をする」等、地元貢献に取り組む、事業者、及び笠置町のPRに繋がった。

取組による効果

出店結果による事業者の収益効果、及びキャンプ場利用者、住民アンケートの実施により、笠置キャンプ場が所在する駅周辺から広がるまちづくりに繋がる活性化策の意見集約に繋がった。なお、令和6年中に近畿地方整備局あて「都市・地域再生等利用区域の指定についての要望書」を提出予定。

活用可能な制度等
特になし。

取組事例 (山添村)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有
『東山地区防災訓練の実施』 〕

○東山地区防災訓練実施

日時:令和5年11月4日(土)7:30~

場所:山添村大字桐山 農村広場、東山公民館

参加者:東山地区区民53名

訓練協力団体: 東山地区各区長、山添村消防署、山添村消防団、
山添村赤十字奉仕団、山添村

- 訓練内容
- ・東山各集落から避難場所への避難訓練(各区長、消防団)
 - ・救命講習(AED講習)(消防署)
 - ・住宅火災警報器、感電ブレーカー展示(消防署)
 - ・炊き出し試食体験(赤十字奉仕団)
 - ・煙中訓練(消防署)
 - ・消火器取扱訓練(消防署)
 - ・消防車両の展示(消防署)

実施主体
担当部署

山添村総務課

R5年度
進捗状況:

取組概要

左記のとおり。

取組内容の工夫点・課題・留意点

多くの方に参加いただけるよう周知の方法が課題。

取組による効果

参加者の防災に対する意識向上が図れた。

活用可能な制度等

特になし。

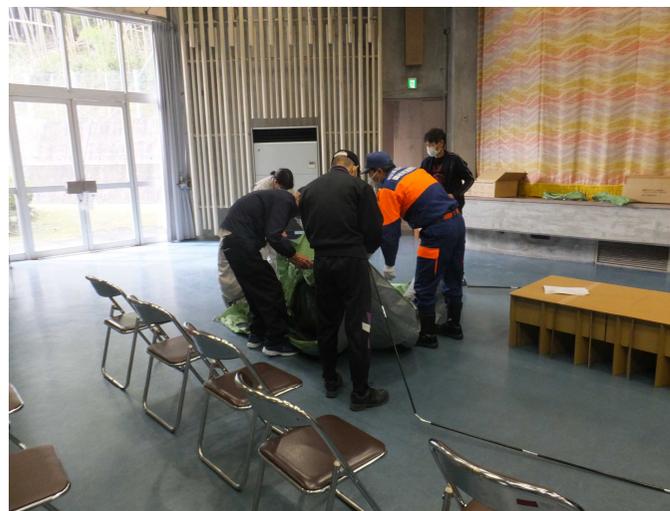
取組事例 (御杖村)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有
『住民参加型の避難訓練の実施』 〕



訓練の様子



実施主体 担当部署	御杖村 総務課	R5年度 進捗状況:
--------------	---------	---------------

取組概要

地震による建物の倒壊、土砂災害、水害を想定し、最寄りの指定避難所まで避難を行いました。また、指定避難所で避難者が使用する間仕切りテント、段ボールベッドの組み立て訓練を実施しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

地域役員の方々を中心に避難所で使用する備品の組み立て訓練を実施し、避難者の受け入れにかかる協力体制の構築を図った。

取組による効果

住民一人一人の防災意識の向上。

活用可能な制度等

特になし。

取組事例 (府県)

取組事例 (三重県)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修

- ① 築堤・護岸工 ② 河道掘削 ③ 河道拡幅

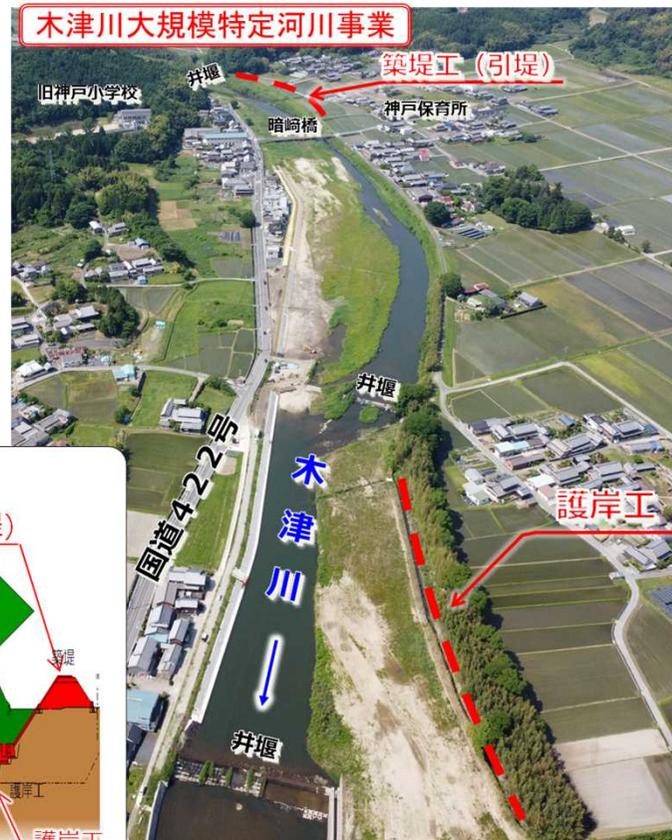
『木津川(指定区間)大規模特定河川事業』

【主な整備内容】

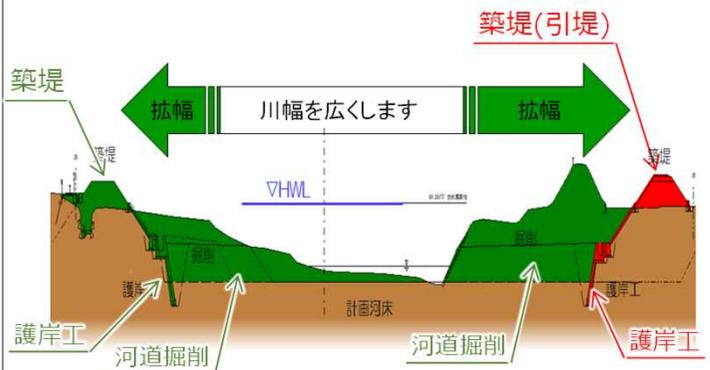


令和5年度の実施内容

- 築堤工(引堤)
- 護岸工



標準断面図



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

木津川(指定区間)沿川における浸水被害の軽減を図るため、河道拡幅、河道掘削等により流下能力の向上を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

井堰等、既存の横断構造物の改築が必要となる。

取組による効果

上野遊水地事業及び川上ダム整備事業と上下流一体となった整備により、流域全体の治水安全度の向上と、流域住民の安全安心を確保する。

活用可能な制度等

特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:三重県】

課題対応: R1-2

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 河川の適正な維持管理
河道の維持掘削、浚渫
『河道の堆積土砂撤去事業』 〕

【主な整備内容】

令和5年度の実施内容

○ 堆積土砂撤去

一級河川木津川他21川

(赤川、日野川、滝川、山の田川、後黒見川、河合川、丸柱川、鞆田川、野田川、比自岐川、御代川、矢田川、北川、柘植川、払子川、矢谷川、大谷川、宮谷川、平野川、松林坊川、小波田川)



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況: ○

取組概要

河道内に経年的に堆積した土砂により、低下している流下能力を回復するため、河道の堆積土砂撤去を実施する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

—

取組による効果

河道の堆積土砂を撤去することにより河川の流下能力を回復し、流域内の治水安全度が向上する。

活用可能な制度等

特になし。

施工前



施工後



一級河川柘植川

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 砂防事業
『砂防堰堤の整備』 〕

【主な整備内容】

石谷の1県単通常砂防事業(伊賀市中村地内)



土砂災害防止法施行令第二条の基準に該当する区域	
土砂災害防止法施行令第三条の基準に該当する区域	
土砂災害の発生が1mを超える場合、土石等の移動による力が50kN/m ² を超える区域	
土砂災害の発生が1mを超える場合、土石等の移動による力が50kN/m ² 以下の区域	
それ以外の区域	

施工状況(R6.1月時点)



実施主体
担当部署

三重県
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

土石流による土砂災害から下流部に存在する人家、耕地、公共施設等を守ることを主たる目的として、砂防堰堤、床固等の砂防設備の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、土石流対策を進めていく。

取組による効果

砂防堰堤等を整備することにより、人家、耕地及び道路に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 避難路、避難場所の安全対策の強化
『急傾斜地崩壊対策施設の整備』 〕

【主な整備内容】

奥馬野地区急傾斜地崩壊対策事業(伊賀市奥馬野地内)



保全対象:避難所(ライトピアおおやまだ)

実施主体
担当部署

三重県
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

急傾斜地崩壊危険区域内の自然がけに対し、擁壁工、排水工及び法面工等の急傾斜地崩壊防止施設の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難所や要配慮者利用施設の安全確保を優先して実施する。

取組による効果

擁壁工等を整備することにより、自力避難が困難な方々に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 森林の整備・保全
『間伐等の森林整備』 〕

【主な整備内容】

○保安林総合改良事業



【施工前】



【施工後】

実施主体
担当部署

三重県
伊賀農林事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

・手入れ不足等により過密状態となった荒廃森林において、森林整備を実施することで、山林の機能を回復し、下方人家等の保全を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

・間伐木を等高線上に並べることで、降雨等により土壌の表目流出を抑制している。

取組による効果

・森林整備を実施することで樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、降雨等に伴う土壌流出を抑制する。

活用可能な制度等

特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:三重県】

課題対応: R9-5,10

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 要配慮者利用施設における避難計画の策定及び避難訓練の促進
『対象施設への避難計画作成支援説明会・講習会の開催』
『市町担当者向けに避難確保計画の意見交換会等を実施』 〕



施設管理者への説明



市町担当者への説明・意見交換

<p>実施主体 担当部署</p>	<p>三重県県土整備部 施設災害対策課 防災砂防課</p>	<p>R5年度 進捗状況:○</p>
<p>取組概要 防災部局が社会福祉施設の管理者を対象に開催している説明会に参加し、水防法、土砂災害防止法に基づく避難確保計画及び訓練の重要性等を説明。また、市町担当者に対しても避難確保計画の説明を行うとともに、意見交換会を実施。</p>		
<p>取組内容の工夫点・課題・留意点 避難確保計画の作成や訓練の実施が進まない場合は、その要因に応じた助言等を実施していく。</p>		
<p>取組による効果 施設管理者や市町担当者に避難確保計画の重要性を理解していただき、計画作成及び訓練実施の進捗を図る。</p>		
<p>活用可能な制度等 特になし。</p>		

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 水位計・監視カメラ・簡易量水標の設置
設備(水位計・監視カメラ・簡易量水標の設置)
『危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置』 〕



令和5年度の実施内容

- 簡易型河川監視カメラの設置
(久米川、シャックリ川)

■河川状況をリアルタイムで提供



(写真:一級河川柘植川)

■危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置状況(淀川水系)

	R4まで	R5	R6以降
危機管理型水位計	36箇所	—	—
簡易型河川監視カメラ	5箇所	2箇所	6箇所

実施主体
担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

三重県の河川DX中期計画(2022~2026)に基づき、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラを拡充し、リアルタイムの河川情報を提供する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

—

取組による効果

洪水時には、危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラにより切迫感のある情報をリアルタイムで提供することにより、水防活動や住民の適切な避難行動を促す。

活用可能な制度等

特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 『土砂災害警戒情報の発表』
- 『土砂災害情報提供システムの更新、運用』
- 『土砂災害警戒区域等の指定』

土砂災害警戒情報の発表



システム周知ポスター



土砂災害情報提供システムの更新、運用



実施主体 担当部署	三重県県土整備部 防災砂防課	R5年度 進捗状況:○
--------------	-------------------	----------------

取組概要

三重県と津地方気象台は共同で、大雨で土砂災害発生危険性が高まった時に土砂災害警戒情報を発表。

地域住民の避難行動や市町による避難指示等の発令を適時・適切に行っていただけるよう、「三重県土砂災害情報提供システム」を運用。

取組内容の工夫点・課題・留意点

システムのアクセス数は低調であり、まずは、住民の土砂災害に対する関心を高めることが課題であることから、見た人がその場でシステムにアクセスできるよう、二次元コードを掲載したポスターを作製し、多量に配布。

取組による効果

昨年度に比べ「土砂災害情報提供システム」のアクセス数は約1.4倍に増加。

活用可能な制度等

特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土砂災害防止月間(6月)等における広報活動を実施
 県広報誌による周知
 『県公報番組(ラジオ、テレビ)による周知』

県広報誌

「三重県土砂災害情報提供システム」はインターネット上で県内の土砂災害に関する情報が確認できるシステムです!

ステップ1: まずは、パソコンやスマートフォンで専用ページにアクセスしてください。
<https://www.saabo.pref.mie.jp>

ステップ2: 次に次のことが把握できます。土砂災害が発生する前に、試してみてください。

- 雨が降り出した時、いつ・どこが危険なのかが分かる!
 (画像・土砂災害危険度情報)欄をご覧ください。
- 周辺の土砂災害リスクが分かる!
 (土砂災害警戒区域など)欄をご覧ください。

6月は「土砂災害防止月間」です

県広報番組

「よしお兄さんの”みえ”推し!」
 CBCテレビ
 令和5年6月21日放送

6月 土砂災害防止月間

せき止める土砂の量
 ダンプカー(10トン) × 約2400台

<p>実施主体 担当部署</p>	<p>三重県県土整備部 防災砂防課</p>	<p>R5年度 進捗状況:○</p>
<p>取組概要 土砂災害や土砂災害警戒区域等に関する県民の意識を向上させるため、各種のメディアで広報活動を実施。</p>		
<p>取組内容の工夫点・課題・留意点 土砂災害防止月間に合わせて、わかりやすい広報を心掛けて実施。</p>		
<p>取組による効果 土砂災害警戒区域等の避難につながる情報発信と土砂災害に関する危機意識の醸成が図れた。</p>		
<p>活用可能な制度等 特になし。</p>		

取組事例 (奈良県)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

整備計画に基づく河川改修の実施
『町並川地下バイパスの整備』

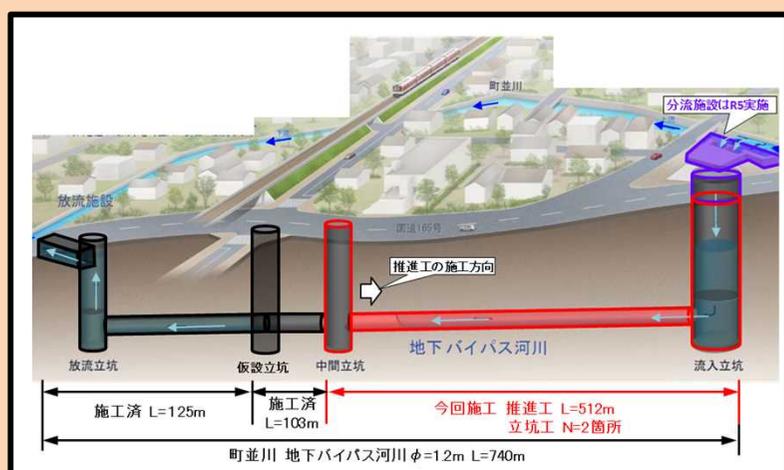
【主な整備内容】



- 工事名
: 町並川 地下バイパス河川工事(推進工事)
- 工期 : R3.10.8~R6.2.29
- 工事延長L=512m
推進工 Φ1200mm(L=496m)



町並川 (工事中)



実施主体
担当部署

奈良県県土マネジメント
部 河川整備課

R5年度
進捗状況:
R5年度完了
予定

取組概要

住民の方々や学識経験者の意見を踏まえて作成した「淀川水系(奈良県域)河川整備計画」に基づいた改修工事の実施を行った。
町並川では河道拡幅が困難なため、地下バイパス河川の整備を行っている。

取組内容の工夫点・課題・留意点

河道拡幅が困難なため、地下バイパス河川の整備で流量を補っている点

取組による効果

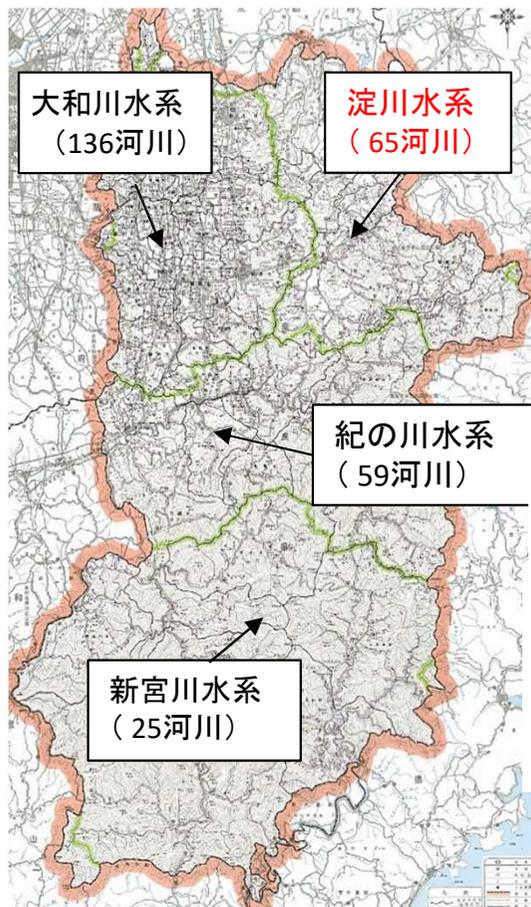
供用に向け、現在工事を行っている。
供用開始が始まれば、整備計画に基づいた流量の確保が可能となる。

活用可能な制度等

特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 水害リスク情報の空白域の解消
『淀川水系内に流れる県管理中小河川の浸水想定区域図作成』 〕



＜洪水浸水想定区域図※(国、都道府県)＞



＜洪水浸水想定区域の作成・指定＞

想定しうる最大規模の降雨による浸水が想定される区域、その水深及び浸水継続時間等について、河川管理者が指定



＜洪水ハザードマップ(市区町村)＞



＜洪水ハザードマップの作成・周知＞

市町村において、水害時の住民避難に活用するために、浸水想定区域や浸水深、避難場所・経路、地下街等、要配慮者施設等の情報を示した洪水ハザードマップの作成・周知を行う

実施主体
担当部署

奈良県 県土マネジメント
部 河川整備課

R5年度
進捗状況:レ

取組概要

水害リスク情報の空白域の解消のため、県管理河川における中小河川の洪水浸水想定区域図を作成し公表を行った(R5.5公表)。

取組内容の工夫点・課題・留意点

ホームページ上で公表し、誰でも確認出来るようにしている。

取組による効果

洪水浸水想定区域図は市町村が作成する洪水ハザードマップの参考となるため、住民の方が洪水被害から避難するための情報となる。

活用可能な制度等

特になし。

取組事例 (水資源機構)

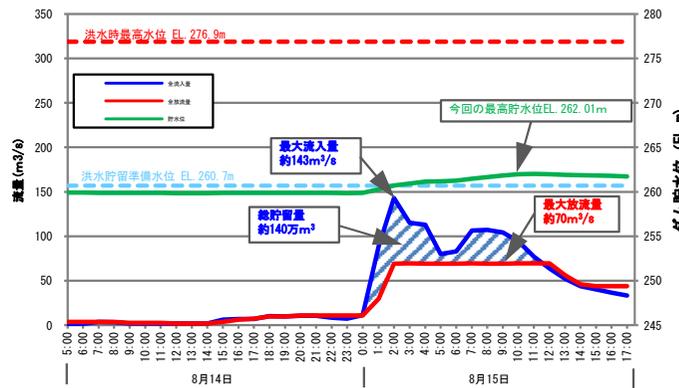
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

川上ダム建設及び管理
『①事業工期を遵守 ②川上ダムの適切な管理運用』

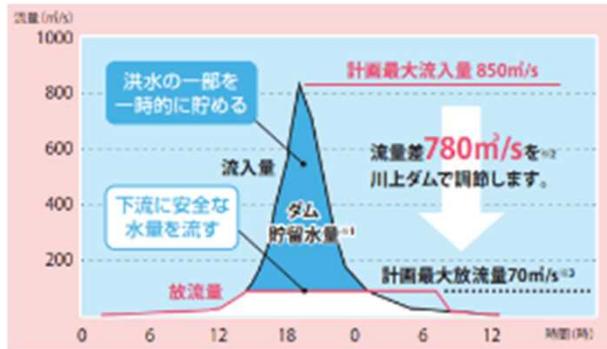
【主な整備内容】



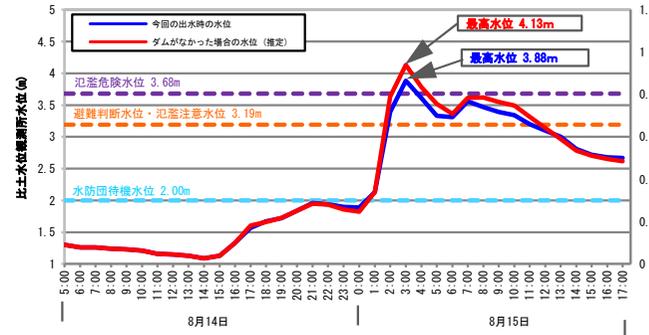
川上ダム全景写真



台風7号出水による川上ダムハイドロ図



川上ダム洪水調節図



台風7号出水による比土地点水位

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

川上ダム建設事業の事業工期である令和5年度までに事業を完了させるとともに、管理運用開始後は、目的の一つである洪水調節を適切に実施し、洪水被害の軽減に努める。

取組内容の工夫点・課題・留意点

下流の河川整備が未完成な箇所では浸水被害が発生する可能性があることから、中小洪水を対象に河川管理者等の指示により洪水ピーク前に放流量を絞る特別防災操作を実施する。

取組による効果

川上ダム下流の比土地点において、河川水位の低減を図るとともに、下流沿川の洪水被害の軽減に効果を発現する。

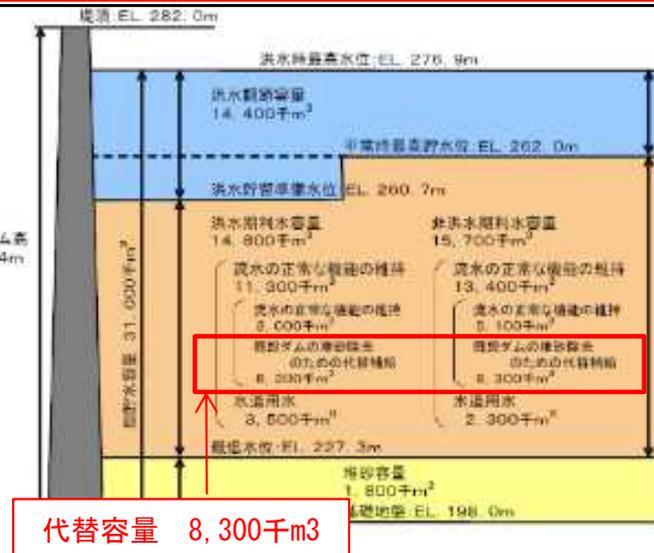
活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 既設ダムの機能維持
『既設ダムの堆砂除去』 〕

【主な整備内容】



川上ダム貯水池容量配分図



高山ダム堆砂除去工事の状況

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

木津川上流ダム群(室生ダムを除く)の土砂管理について、川上ダムの代替容量を利用し、木津川上流ダム群でローテーションを組み、各ダムの貯水位を低下させ堆積土砂の陸上掘削を行うことにより、ライフサイクルコストを低減する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

堆砂除去により発生した砂は、ダム下流への土砂還元や地域貢献として公共事業への転用や民間企業との連携により有効活用を図ることとなっているが、それらを実現するための検討、調整。

取組による効果

- ・ 堆砂除去による貯水池内のリフレッシュ(有効容量のアップ)。
- ・ 陸上掘削によるライフサイクルコストの低減。

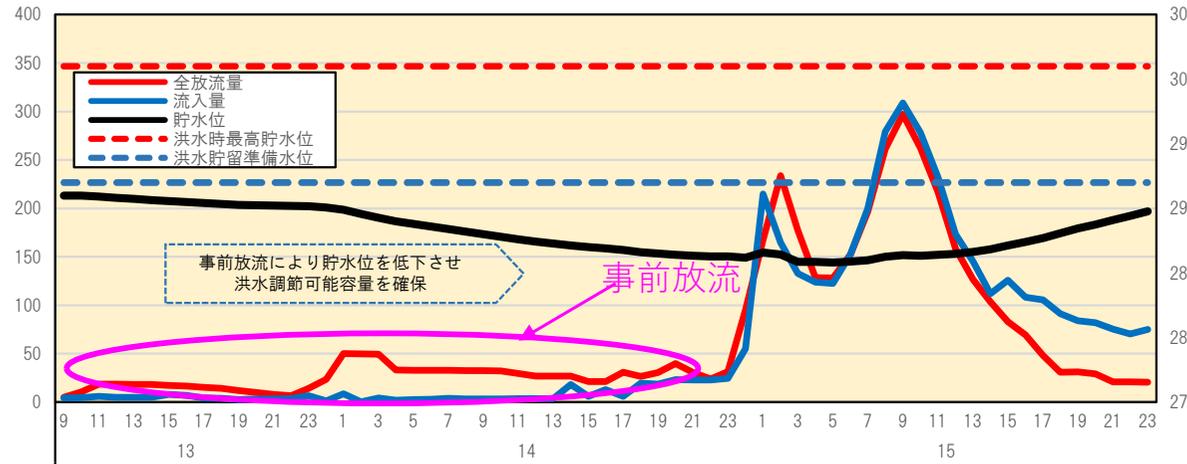
活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 ダムの事前放流の実施及び操作規則・実施体制の構築
 『①事前放流実施要領の策定 ②適切な事前放流の実施』 〕

【主な整備内容】



台風7号(R5.8)における高山ダムのハイドロ図

台風7号(R5.8)における各ダムの事前放流量等

ダム名	事前放流量	ダムの水位低下量	備考
高山ダム	1,034千m ³	3.05m	
青蓮寺ダム	1,804千m ³	2.53m	
室生ダム	13千m ³	0.02m	
布目ダム	1,024千m ³	1.57m	
比奈知ダム	2,489千m ³	4.68m	

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

既設5ダムにおいては、令和3年度までに治水協定に基づく事前放流実施要領を策定済み。川上ダムも試験湛水終了後に策定予定。また、既設5ダムにおいては、実施要領に従い適切に事前放流を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

確実な事前放流を実施するためには、降雨予測の精度向上を図る必要がある。

取組による効果

事前放流により出水前に貯水位を低下させることが可能であり、治水機能の向上が図られる。

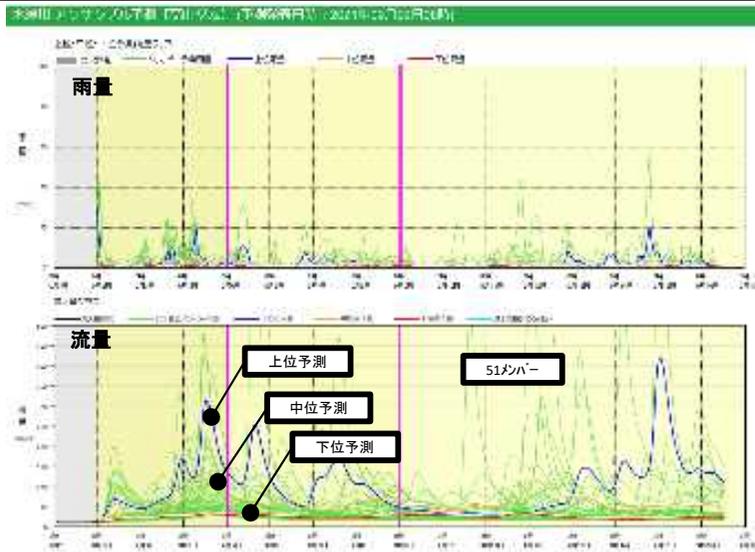
活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 効果的な事前放流の実施(予測精度の向上) 〕
 『予測精度の向上』

【主な整備内容】



木津川 概略【高山ダム】

高山ダム 新南流出予測

高山ダム	2日予測				4日予測				6日予測			
	アンサンブル予測				アンサンブル予測				アンサンブル予測			
	上段	中段	下段	下段	上段	中段	下段	下段	上段	中段	下段	下段
予測対象河川	(6月17日18時)				(6月19日18時)				(6月21日18時)			
雨量	最大予測雨量	43.0mm	43.5mm	43.1mm	55.5mm	53.0mm	42.5mm	45.5mm	45.5mm	43.5mm	43.0mm	43.0mm
	100%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	50%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
流入量	最大流入量	4,400㎥	4,500㎥	4,300㎥	5,500㎥	5,300㎥	4,500㎥	4,800㎥	4,400㎥	4,500㎥	4,300㎥	4,300㎥
	42%の超過	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)	44 (10%)
	100%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
水位	最高水位	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%	2.10%
	100%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	50%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	100%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
貯水量	最大貯水量	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	100%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	50%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	100%の超過	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

アンサンブル予測の表示画面

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

事前放流をより効果的に行うため、長時間先降雨予測であるアンサンブル技術を導入し、事前放流の高度化(早期判断、放流量の合理化)を目指している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

事前放流の基準降雨量の超過や洪水調節に至る雨の経験が不足しており、傾向にばらつきがあるため、引き続き事例収集に努める必要がある。

取組による効果

- ・ ダム下流河川利用者の安全確保 (少量のダム放流での対応が可能になる)
- ・ 貯留水の有効活用 (発電放流設備からの放流)

活用可能な制度等
特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 土砂のストックヤード整備、浚渫工事における河床堆積土の受入れ
『新規のストックヤード整備』 〕

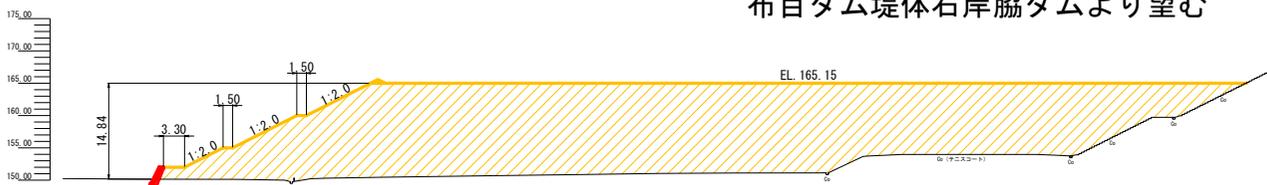
【主な整備内容】



高山ダムストックヤード平面イメージ図



布目ダム堤体右岸脇ダムより望む



実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

高山ダム右岸の機構用地を当面のストックヤードとして整備を進めた。
また、堆砂除去計画を踏まえ、ダム近傍に新たなストックヤードを確保するため、調査を継続していく。

取組内容の工夫点・課題・留意点

R4-2の課題にあるような有効利用に向け検討、調整を積極的に行うとともに、新規のストックヤードの確保に向け、ダム周辺関係自治体などとの情報共有を図っていく。

取組による効果

当面のストックヤードは確保できたことから、継続した堆砂除去を実施する。
高山ダム右岸 約14万m³
布目ダム右岸 約15万m³

活用可能な制度等
特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 ダムの防災操作や放流連絡体制の周知(地域住民へ避難の必要性やダム警報局スピーカーの周知) 〕
 『ダムの防災操作や放流連絡体制の周知』



洪水対応演習の様子(R5.5)



住民参加型訓練の様子(R5.5)



布目ダム放流連絡会の様子(R5.5)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

洪水対応演習および住民参加型訓練を実施し、避難の必要性や警報局スピーカーの周知を行った。防災連絡会ではダム防災操作の説明、放流連絡体制の周知を行った。

取組内容の工夫点・課題・留意点

毎年繰り返し周知をすることで、ダム操作に対するより一層の理解を得ることができる。

取組による効果

事前にきちんと説明、周知を行うことで、洪水時や緊急時などもスムーズなやりとりをすることができる。

活用可能な制度等

特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 関係機関が連携した情報伝達訓練の実施
『関係機関が連携した情報伝達訓練の実施』 〕



名張市防災訓練の様子(R5.11)



名張市防災訓練の様子(R5.11)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:

取組概要

名張市が主催する防災訓練に参加。

取組内容の工夫点・課題・留意点

関係自治体が主催する訓練には積極的に参加し、関係自治体との連携の強化を図る。

取組による効果

市内の浸水被害の状況及び対策について、情報共有と連携を図ることができる。

活用可能な制度等

特になし。

取組事例
(津地方気象台
奈良地方気象台)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:津地方气象台 奈良地方气象台】

課題対応: R8-5

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信を実施

『線状降水帯の発生を知らせる「顕著な大雨に関する気象情報」を予測技術を活用し、最大30分程度前倒しで発表する』

情報の改善

・線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

令和3(2021)年
線状降水帯の発生をお知らせする情報(6/17提供開始)

「明るいうちから早めの避難」・・・段階的に対象地域を狭めていく

令和4(2022)年～
広域で半日前から予測

令和6(2024)年～
県単位で半日前から予測

令和11(2029)年～
市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



線状降水帯の雨域を楕円で表示

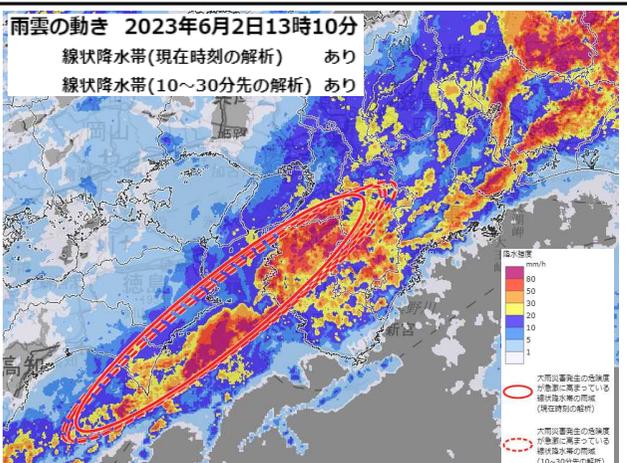
今回の新たな運用
令和5(2023)年～
最大30分程度早く発表

令和8(2026)年～
2～3時間前を目標に発表

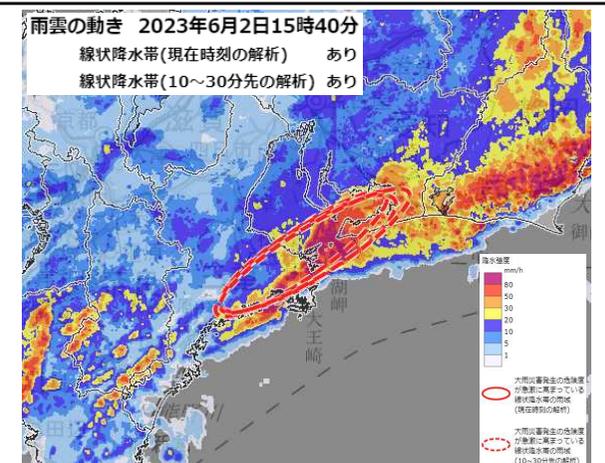
・線状降水帯の雨域を表示

「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に予測時間を延ばしていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討



顕著な大雨に関する奈良県気象情報 第1号
令和5年6月2日13時10分 奈良地方气象台発表
(見出し) 奈良県南部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。



顕著な大雨に関する三重県気象情報 第1号
令和5年6月2日15時40分 津地方气象台発表
(見出し) 三重県南部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

実施主体 担当部署	気象庁	R5年度 進捗状況:○
--------------	-----	----------------

取組概要
線状降水帯に関する情報の改善。

取組内容の工夫点・課題・留意点
線状降水帯についての情報は、今後も段階的に、対象地域を狭めていくこと、予測時間を延ばしていくことを予定している。

取組による効果
「顕著な大雨に関する気象情報」を発表することにより、関係機関に線状降水帯への危機感を共有することができる。

活用可能な制度等
特になし。

取組事例

(国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター近畿北陸整備局)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 森林の整備・保全
『間伐等の森林整備』 下刈: 22ha、除伐: 15ha、枝払: 1ha 間伐: 70ha 〕

【主な整備内容】

水源林の整備



針交混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



間伐実施後

実施主体
担当部署

近畿北陸整備局
奈良水源林整備事務所
津水源林整備事務所

R5年度
進捗状況: ○

取組概要

奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な森林整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるため、針広混交林の造成や誘導伐の実施により育成複層林化を推進。また、流木災害防止の観点から販売可能な間伐材等は搬出し有効利用を図る。

取組による効果

森林整備を計画的に実施することで、樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化によりピーク流出量の発生時間を遅らせるなど、保安機能の強化を図る。

活用可能な制度等
水源林造成事業

取組事例
(伊賀鉄道(株))

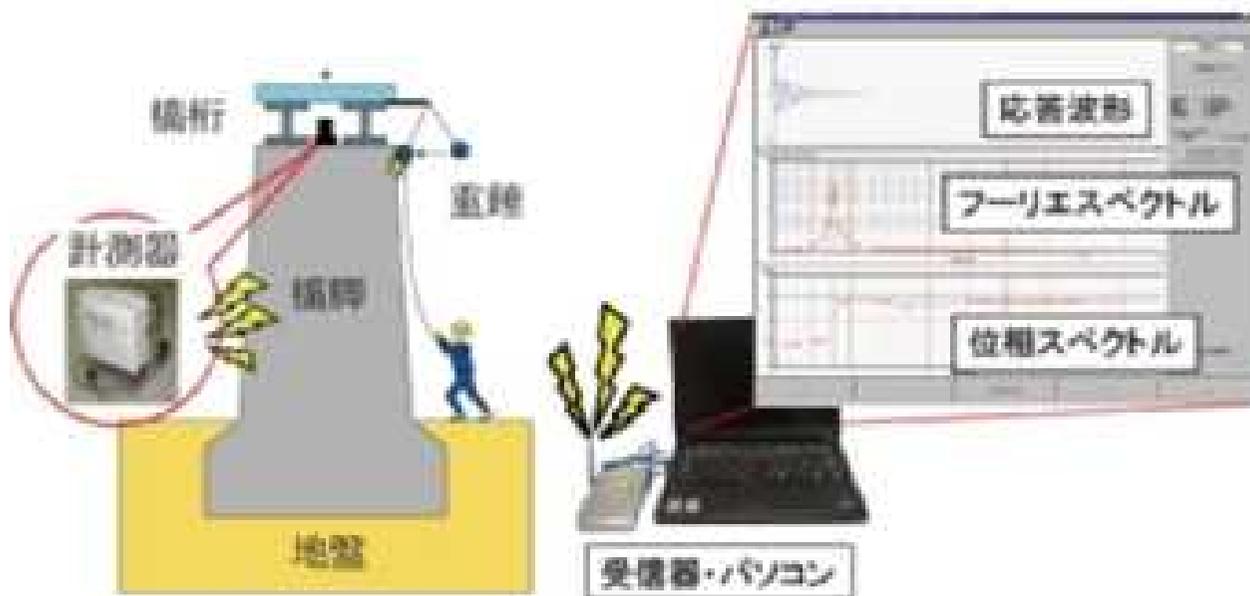
■対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:伊賀鉄道(株)】

課題対応:R

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔河川占用している鉄道橋の健全度調査の実施
 (衝撃振動試験・河床洗堀調査)
 『許可工作物の点検、巡視の実施及び専用車への適正な運用の指導』〕

【主な整備内容】



実施主体
担当部署

伊賀鉄道

R5年度
進捗状況:

取組概要

橋脚の基礎部の健全度を調査するため、衝撃振動試験及び河床洗堀量の計測を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

目に見えない河床の状況を定期的に計測。

取組による効果

近年増加する河川内橋脚の基礎洗堀による橋脚傾斜や流出を未然に防止する。

活用可能な制度等

特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:伊賀鉄道(株)】

課題対応:R

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

新居遊水地の陸閘閉鎖の合同訓練
『新居遊水地への貯水により木津川下流域での氾濫を防ぐ』



陸閘を閉鎖した状態(写真はR4年実施)

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所
伊賀市
伊賀鉄道

R5年度
進捗状況:

取組概要

河川水位上昇による陸閘設備閉鎖のため、
鉄道の運行を停止する
(毎年1回訓練の実施)

取組内容の工夫点・課題・留意点

伊賀市消防団員が操作するにあたり、異常
気象時の作業となるため、夜間で実施した。

取組による効果

河川水位の上昇時における鉄道の運行休
止を実施する時の連絡体制の確認ができた。

活用可能な制度等

特になし。

取組事例 (木津川上流河川事務所)

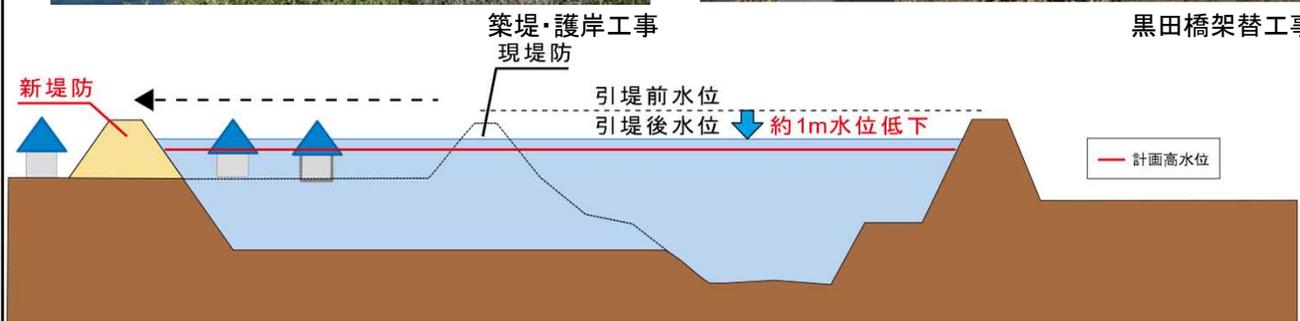
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修

- ①築堤・護岸工 ②河道掘削 ③河道拡幅 ④橋梁架替

『名張川 名張かわまちづくり一体型浸水対策事業(Ⅰ期)』 宇陀川:名張市黒田地区/引堤河川改修(約290m)

【主な整備内容】



※引堤計画図とかわまち計画図は、現時点の計画であり、今後詳細設計等を実施することにより内容を変更する場合があります。

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

名張市街地の浸水被害の軽減を図るため、「名張かわまちづくり」と連携して引堤及び河道掘削を推進し、安全度の向上を図る。令和5年度は名張大橋、黒田橋撤去工、黒田橋台工、築堤護岸工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今後、気候変動による外力の増大とそれ伴う水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、対策を進めていく。

取組による効果

河川整備計画で目標としている昭和28年台風13号洪水の降水量を1.1倍とした洪水に対して、名張川・宇陀川合流点付近の水位を約1m低下させ、堤防からの越水を回避し、名張市街地の浸水被害を軽減する。

活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修
 ①河道掘削 ②河道拡幅 ③橋梁架替
 『上野遊水地事業』 服部川:三田地区 / 河道掘削(約30,000m³)、引堤護岸工 (約150m)

【主な整備内容】



実施主体
 担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
 進捗状況:○

取組概要

上野遊水地、川上ダムの運用開始を受け、伊賀地域のさらなる治水安定度向上のため河道掘削を実施。令和5年度は服部川三田地区で河道掘削、引堤護岸工の施工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

治水上の課題(内水への影響、上下流バランス、超過洪水への対応等)や維持管理、土地利用、自然環境への影響に留意が必要である。

取組による効果

河道掘削の計画的に実施することで段階的に治水安全度を向上させて浸水被害を軽減させることができる。

活用可能な制度等
 特になし。



河道掘削



伊賀上野端:仮橋下部工

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川管理施設の長寿命化
排水ポンプオーバーホール等
『河川工作物関連応急対策事業 樋門ゲートの無動力化』

【主な整備内容】

【目的】

樋門樋管の操作が不要な樋門等の導入を推進するため、「樋門樋管ゲート形式検討の手引き」が策定され、既設の樋門樋管について無動力式ゲートを導入して「無動力化」を図り、問題を解決して行くことである。

令和6年3月完成予定



木津川 朝屋排水樋門(工事中)



木津川 木興排水樋門(工事中)

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

集中豪雨発生頻度の増加による操作頻度の増加、操作員の高齢化や担い手不足など、操作員の確保が難しくなっており樋門樋管ゲートの無動力化を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

樋門樋管の運用において、少子高齢化の影響により「操作員の確保」が困難になっていること、洪水の水位上昇時に操作員が避難した場合、「無人状態」になることが課題である。

取組による効果

従来の人力によるゲート操作が不要なフラップ式ゲートにすることにより担い手不足の解消につながる効果がある。

活用可能な制度等

特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信を実施

『木津川上流河川事務所X(旧Twitter)による出水情報等の配信』

【主な実施内容】

【目的】

国土交通省では、洪水時に住民の主體的な避難を促進するため、洪水情報のプッシュ型配信(携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用した周知)に取り組んでいます。

※「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みです。



実施主体 担当部署	木津川上流河川事務所	R5年度 進捗状況:○
--------------	------------	----------------

取組概要

令和5年度は、SNSと「X」(旧twitter)により配信することで、利用者に向け洪水情報配信に向けたプッシュ型配信を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

工夫点としては受信者が要求しなくても河川管理者から、現在の河川情報について「X」(旧twitter)を通じて把握できる取組を行った。

取組による効果

「X」(旧twitter)から配信することで、情報公開することが出来た。

活用可能な制度等

特になし。



＜記載内容＞

2023年8月15日午前8:01投稿
【警戒レベル2相当情報[洪水]】名張川の名張水位観測所(名張市南町)15日7時50分頃に、氾濫注意水位(6m)に到達しました。市町村長からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。
(8月15日7時50分頃の「名張大橋」カメラの静止画像です)

■ 対策事例【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト: 木津川上流河川事務所、紀伊山系砂防事務所】

課題対応: R8-1, R9-14

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. 小中学校等における水災害教育の実施、2. ハザードマップの改良、周知、活用
- ① 小中学校への出前講座の実施 ② ハザードマップの防災教育への活用
- 『御杖村の小学校で出前講座を実施』

【河川災害説明資料】



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所
紀伊山系砂防事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、治水・防災・環境をテーマに、木津川上流河川事務所管内の小中学校で出前講座を実施している。令和5年度は御杖小学校で、治水・防災について出前講座を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

子供たちが集中して学習できるようテレビを活用し、子供たちが関心のある自分の家の周りの危険に対する対処法について説明を行った。

取組による効果

河川災害及び土砂災害の種類やメカニズム、ハザードマップでの避難所の確認などを通じて、小学校周辺が洪水被害や土砂災害が発生しやすいことに気付くなど、自分の命は自分で守ることの大切さを理解してもらった。

活用可能な制度等
特になし。

【土砂災害説明資料】

地域のハザードマップを確認しよう

御杖村 土砂災害ハザードマップ
神末 御杖 宇陀

1:15,000

避難所ここか!!

土砂災害の恐れのある場所や避難所
避難ルートを確認しましょう



“量”の強化
“手段”の強化

【治水計画見直し】気候変動を踏まえた治水計画への見直し
【新技術】インフラDX等の新技術の活用

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. 小中学校等における水災害教育の実施、2. 環境学習関係
- ①小中学校への出前講座の実施
 - ②環境学習関係
- 『宇陀市の大字陀小学校で出前講座を実施』

- 内 容: ①川の危険性
 ②川の治水・減災対策
 ③健全な水循環の重要性について
 ④簡易水質検査(パックテスト)

【川の危険性に関する説明資料】



【健全な水循環の重要性に関する説明資料】

パックテストとは?

- ① 測りたい水と試薬を混ぜて反応させる
- ② 混ざった液の色と標準色を比べると…

どれくらい汚れているか簡単に分かる!

きれい ————— きたない

宇陀市立大字陀小学校



水道水は川にもどって 何度も使われます

私たちが使った水は、下水道→浄化施設を通過して川に戻ります。そして、海にたどり着くまでに何度も家庭や農業、工業のために利用されます。

川の水は何度も使われるうちにだんだん汚れていきます…



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、治水・防災・環境をテーマに、木津川上流河川事務所管内の小学校で出前講座を実施している。令和5年度は大字陀小学校で環境をテーマに出前講座を開催した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

4年生の児童を対象に興味を持ってもらうよう、クイズ形式のスライドで説明を行ったり、簡易水質検査(パックテスト)を実際に体験していただき、川の水をきれいにすることの大切さを理解するよう留意した。

取組による効果

洪水の危険性及び治水対策や健全な水循環の重要性について、楽しみながら理解してもらった。

活用可能な制度等
特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 小中学校等における水災害教育の実施
『名張市桔梗が丘自治連合会主催講座で講演を実施』 〕

【主な実施内容】

開催日時: 令和5年6月30日(金)
13時30分~14時45分
開催場所: 桔梗が丘市民センター
講師: 木津川上流河川事務所 流域治水課
参加者: 17名

【講演内容】

- ①近年の主な水害と流域治水の考え方について
- ②木津川上流河川事務所の事業内容
- ③今後の取り組みについて



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況: ○

取組概要

桔梗が丘自治連合協議会が主催する講座「名張市の治水を考える講演会」にて、「名張市の治水の現状と今後の取組について」と題した講演を実施し、近年の主な水害や流域治水の取組について解説した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

課題としては、『流域全体の合意形成をどう行うか』、『流域治水の進め方とその内容をきちんと地元で事前周知することが重要と考える』ことがあったと伝えた。

取組による効果

取組を行うことで各自治体が流域治水の主役となっていくことへの意識を持っていただく効果があった。

活用可能な制度等
特になし。



■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト: 木津川上流河川事務所、名張市】

課題対応: R9-15

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- マイ・タイムラインの作成
- マイ・タイムライン作成支援のワークショップの開催
- 『名張市マイ・タイムライン講習会を開催』

【主な実施内容】

開催予定日: 令和6年2月10日(土)
 開催場所: 名張市防災センター2階 防災研修室
 内 容: 名張市マイ・タイムライン講習会
 対象者: 名張市住民(自主防災組織の役員、防災士等)等
 講 師: 澤キャスター、土井キャスター
 メニュー: ①対談「適切な避難の重要性と水害に強いまちづくりについて」
 ②講演「近年の気象災害と情報の活用」
 ③マイ・タイムライン作成講習



澤キャスターによるマイ・タイムライン講習



名張市長による閉会の挨拶
 ・マイ・タイムラインを活用していただきたい
 ・避難指示が出たら確実に避難していただきたい

実施主体
担当部署

・木津川上流河川事務所
・名張市

R5年度
進捗状況:○

取組概要

流域治水の意識、重要性に対する流域関係者の理解と協力を求める働きかけを目的に自主防災組織や防災士等を対象とした「名張市マイ・タイムライン講習会」を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

テレビで活躍されているお天気キャスターを講師に招き、気象予報士、防災士の両面の視点から気象に関する講演、マイ・タイムライン作成講習をしていただいた。対談では、名張市長に適切な避難の重要性について語っていただいた。

取組による効果

自主防災組織の役員、防災士等に参加いただき、マイ・タイムライン作成の有効性を理解していただき、家族・近所・友人にもすすめていただく働きかけができた。

活用可能な制度等
特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. 関係機関が連携した実働水防訓練の実施、2. 関係機関が連携した情報伝達訓練を実施
 ①水防訓練の実施 ②関係機関が連携した情報伝達訓練の実施
 『関係機関と連携した洪水対応演習を実施』

【主な実施内容】

実施日: 令和5年5月12日(金)

演習の目的

本演習は木津川上流河川事務所風水害対策部運営計画、水防マネジメント計画書、流域タイムラインに基づき出水時における洪水予測の実施、水防関係機関等への水防警報・洪水予報等の情報伝達、ダム・水門など河川管理施設の操作ルール・操作状況の確認及び情報伝達、河川工事の現場関係者への情報伝達及び、被害の軽減を図る措置としての対策工法の検討等、実践的な演習を行うことにより、洪水時に適切な対応ができるよう、防災体制に万全を期することを目的としている。



Web会議を活用し訓練



演習状況

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、木津川上流河川事務所風水害対策部運営計画及び木津川上流域水防マネジメント計画書、流域タイムラインに基づき出水時における実践的な演習を実施している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

出水時における洪水予測の実施、水防関係機関等への水防警報・洪水予報等の情報伝達、河川管理施設の操作ルール・操作状況の確認及び情報伝達、河川工事の現場関係者への情報伝達及び応急対策工法の検討等、実践的な演習を行い、課題を抽出している。

取組による効果

令和5年度洪水対応演習にて、情報伝達手段や伝達タイミングの確認を行うことで、出水時に流域タイムラインに則り、遅延なく情報伝達を行うことができた。

活用可能な制度等

特になし。

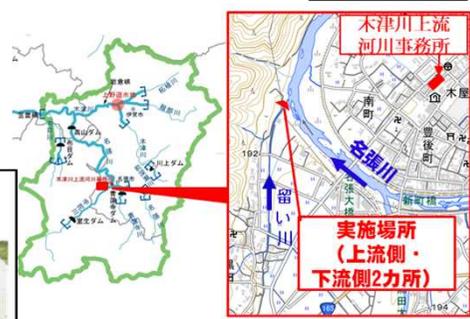
グリーンインフラに対する取り組み

〔 自然環境の保全・復元などの自然再生
『ナマズ遡上作戦2023を実施』 留い川のナマズ遡上用の簡易魚道設置 〕

【主な実施内容】対象魚:なまず

なまずは5~6月に川から田んぼに入り産卵する習性があるため、それに合わせて実施することにした。簡易魚道は産卵期が終わる6月中旬に撤去を行った。

位置図



実施主体 担当部署	木津川上流河川事務所	R5年度 進捗状況:○
--------------	------------	----------------

取組概要
「河川環境の整備と保全」目的の中で河川横断方向の連続性回復に取り組んでいる。名張川と留い川(とめいがわ)との接続部で土のうや石を使用した簡易魚道を設置した。

取組内容の工夫点・課題・留意点
なまずが遡上するには現状流量が足りず、傾斜がきついためその点を簡易魚道でどのように解決するかをポイントにおき、川の中に土のうや石を運び込み設置した。

取組による効果
5月16日に実施したナマズ遡上作戦2023によりナマズの遡上を当日確認。
田圃には段差があり上がれないが、農水路にナマズの産卵に適した環境を確認することができた。

活用可能な制度等
特になし。

留い川樋門上流側



大きな落差があり、なまずの遡上の阻害となっている。

段差が解消され、流速の遅いポイントを数カ所作ることで、休場をつくり遡上の手助けとなるポイントを設けた。

留い川樋門下流側



水高が低く、休み場がないため、なまずが遡上しづらくなっている。

流れを制限することで、水かさが増し、障害物をもうけて、休場をつくり遡上の手助けとなるポイントを設けた。



簡易魚道設置後、なまずの遡上及び上流に産卵に適した環境を確認。

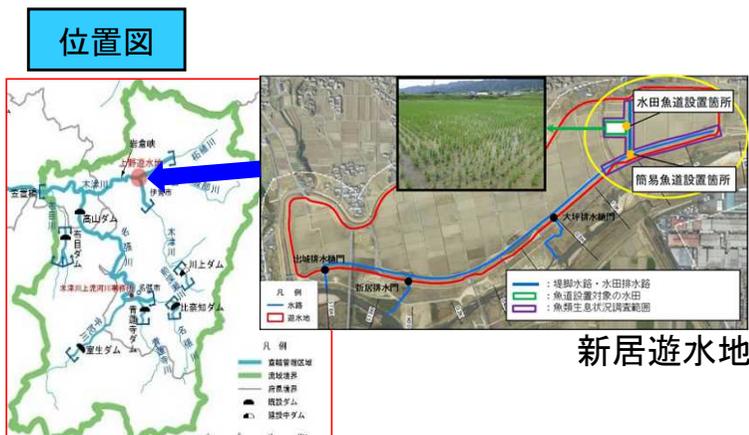
グリーンインフラに対する取り組み

自然環境の保全・復元などの自然再生
『服部川で水田魚道と簡易魚道を実施』

【主な実施内容】

新居遊水地内の水田と堤脚水路に対し、今年度試行的に水田魚道と簡易魚道を設置した。

また、魚道の効果を確認するため、魚道出口における遡上調査と、堤脚水路、水田排水路、水田における捕獲調査を行った。(魚道は令和5年6月15日に撤去済)



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

堤脚水路から水田排水路までと水田排水路から水田まで、魚類を遡上させるため簡易魚道を設置した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

水田魚道を設置するにあたり、地権者の理解と協力が今後の課題である。

取組による効果

ヌマムツ、カマツカ、タモロコ、ドジョウの遡上を確認できた。

魚道設置後は、周辺の魚類生息状況の改善も見られた。

田んぼに鳥のサギがたくさん来るようになった。

活用可能な制度等

特になし。

グリーンインフラに対する取り組み

生態系ネットワークの形成
『宇陀川でコクチバス駆除体験会を実施』

【主な実施内容】

日時:令和5年5月26日(金)
13:30~15:00

場所:宇陀川1.4k(赤目口橋)付近

参加者:名張川漁業協同組合、河川協力団体NPO、(独)水資源機構、環境調査受注者、木津川上流河川事務所

内容:川の中に入り産卵床を見つけ次第、スコップ等で駆除を行う。網を用い、親魚の駆除も実施した。

位置図



実施場所

赤目口橋

宇陀川

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

特定外来生物に指定されているコクチバスについて、繁殖状況の把握・および駆除を実施するための作業を行った。

取組内容の工夫点・課題・留意点

作業者は水難事故に留意しライフジャケットやウェットスーツを着用した。

Teamsを用いて作業状況の中継を実施することで現地立会していない職員も駆除の状況を確認することができた。

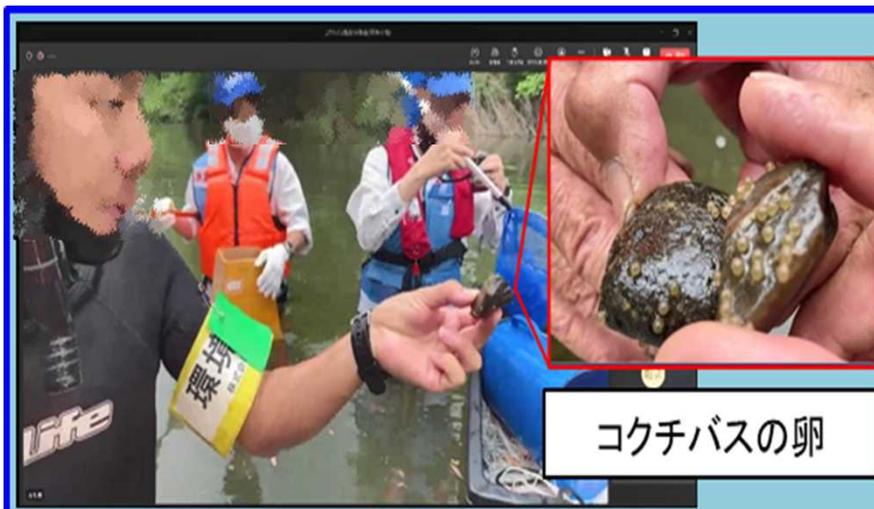
取組による効果

関係機関等が外来魚への理解を深めるきっかけとなった。

活用可能な制度等

特になし。

パネルを用いた説明で
外来魚への理解を深める



コクチバスの卵

グリーンインフラに対する取り組み

魅力ある水辺空間・賑わい創出

『忍者列車からはじまる上野遊水地ウォーキング2023を実施』

【主な実施内容】



パネルによる説明①



位置図

実施場所

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

上野遊水地を実際に歩き・見ることによって、伊賀の水害の歴史や治水施設の機能を知っていただき参加者の防災意識や治水事業への理解向上を目指すため、伊賀鉄道株式会社と協力し、2017年から毎年「上野遊水地」について理解を深めてもらうために、ウォーキングイベントを開催している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

親子で参加できるコース設定を行い、楽しみながら防災意識や治水事業への理解ができるよう工夫している。次回からは、雨天時の対策も検討の課題である。

取組による効果

参加者アンケートにより、伊賀の水害の歴史や治水施設の機能について理解を深めていただいたことを確認できた。

活用可能な制度等

特になし。



パネルによる説明②



忍者列車との記念撮影



スイスイ館見学



ドローン展示



TEC服体験



照明車

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト: 上野生涯学習推進会議、木津川上流河川事務所】

課題対応R16-1

グリーンインフラに対する取り組み

環境学習関係

『水生生物調査(稲広橋、服部橋)を実施』

【主な実施内容】

木津川上流部の稲広橋と服部川の服部橋にて、自然体験学習を中心に活動している「上野生涯学習推進会議」の皆様と第29回目となる水生生物調査を実施しました。



①稲広橋



②服部橋



水生生物調査の結果

見つかった指標生物 I
(きれいな水)



稲広橋、服部橋とも昨年同様きれいな水であった。



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

国土交通省と環境省で実施する全国水生生物調査は、川にすむ生き物を採集し、その種類を調べることで、水質(水のごよれの程度)を判定する調査で、地域の協力で、身近な環境問題への関心を高めることを目的に継続的に実施してる。

取組内容の工夫点・課題・留意点

参加者には、水生生物を用いた指標に加え、試薬を使った水質測定試験(パックテスト)の体験を実施した。

取組による効果

木津川(稲広橋)、服部川(服部橋)共に水生生物調査の結果より、見つかった指標生物 I (きれいな水)であることが確認できた。

活用可能な制度等
特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト: NPO法人地域と自然ちよいまる、木津川上流河川事務所、水資源機構木津川ダム総合管理所、名張市】 課題対応R16-2

グリーンインフラに対する取り組み

ミズベリング
『ミズベリングin名張川2023を実施』

【主な実施内容】

目的

ミズベリングとは水辺環境に対する社会の関心を高め、水辺の新しい活用の可能性を切り開いていくための官民一体の共同プロジェクトです。



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくものとして実施している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

取組の工夫点としてプログラム内容に、川ヨガ、能の舞、葦笛及びサクスの演奏を鑑賞等多くのプログラムを実施できた。

取組による効果

当日は主催者と参加者との距離も近く実施することができた。また、活動内容を地元ケーブルテレビ・ラジオ・新聞で取り上げて頂き広報活動につながった。

活用可能な制度等

特になし。

北川名張市長挨拶



木津川上流河川事務所長挨拶



観阿弥創座の
地で能の舞



グリーンインフラに対する取り組み

民間活力による河川環境保全及び地域活性化への支援

『ヤギを活用した除草、刈草ロールの配布』 服部川:小田地区、小田遊水地

【主な実施内容】

刈草ロール目的
堤防点検のために年2回の刈草を行い、発生した、刈草ロールの配布を通じて、行政とみなさまをつなぐ新たな「コミュニケーションの場」を作りだしています。主に堆肥材料・家畜飼料・マルチング材等に活用されています。

刈草ロール作成手順



ヤギを活用した除草の取組

平成27年11月より、やぎを使った堤防除草の取り組みを試験的に進めています。

- ポイント1 費用が安くて、環境にもやさしい
- ポイント2 動物と触れ合う癒やし効果
- ポイント3 やぎはお世話が簡単



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

木津川上流河川事務所では、堤防の異常(崩れや亀裂等)を早期に発見し、河川流域の安全や環境を守るため、年2回(春・秋)の堤防除草を実施しています。

取組内容の工夫点・課題・留意点

近年の資材・労務費の高騰により刈草ロールの制作費が増加していることから、無料配布の方法が課題である。

取組による効果

刈草ロールは、無料で配布することで、有料処分に比べて、約2割の「コスト削減」効果が見込める効果がある。

ヤギ除草は、動物と触れ合う癒やし効果があり地域の方に好評である。

活用可能な制度等

特になし。

■対策事例【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:名張クリーン大作戦2023実行委員会

(NPO法人地域と自然ちよいまる、木津川上流河川事務所、三重県伊賀地域防災総合事務所、名張市、水資源機構木津川ダム総合管理所)

課題対応R16-3

グリーンインフラに対する取り組み

民間活力による河川環境保全及び地域活性化への支援
『名張川クリーン大作戦20周年記念イベントを実施』

【主な実施内容】

日付:令和5年11月12日(日)
場所:イオン名張店3階
内容:名張クリーン大作戦20周年記念イベント「みんなで守ろう名張のエコ自然」を開催した。イベントでは、名張川の引堤事業や過去の災害のパネル展示、名張川の未来を自由な発想で書いていただくワークショップ、「うんこドリル 川の安全」の体験、河川レンジャーによる魚の展示を行った。



名張川の未来を考える
ワークショップを実施



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

名張クリーン大作戦は“名張をきれいにしよう”“名張の自然美を発信しよう”を合言葉に快適環境づくりと名張の活性化を目指し市民が中心となって始まったイベントである。今年は開催20年目を迎え記念イベントを開催した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

名張クリーン大作戦2023実行委員会を設置し各関係機関と連携をとってイベントを執り行った。

取組による効果

名張かわまちづくりのパネル展示やワークショップ等を行い地域の方々に河川への関心をもってもらった。

活用可能な制度等

特になし。

取組事例
(紀伊山系砂防事務所)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 木津川水系に流入する土砂流出抑制による土砂・洪水氾濫対策
『砂防堰堤、山腹工、床固工の整備』 〕

【主な整備状況】



【完成した砂防施設例】



谷出第3砂防堰堤



谷出第4砂防堰堤



室生口砂防堰堤

【治山部局との技術交流】



実施主体 担当部署	紀伊山系砂防事務所 工務課	R5年度 進捗状況:○
--------------	------------------	----------------

取組概要

木津川水系における直轄砂防事業では、昭和34年9月の伊勢湾台風をはじめ、台風や集中豪雨等により山腹崩壊や土石流災害が発生しており、継続して砂防施設を整備している。さらに、近年、全国で大きな被害をもたらしている土砂・洪水氾濫へ対応するための、施設整備を進めるほか、施設の適切な状況把握に基づく補修を推進する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

土石流対策の砂防堰堤の整備においては、流木捕捉工を設置するとともに、治山部局との技術交流を実施

取組による効果

木津川水系における土砂流出に起因する土砂・洪水氾濫被害および土石流・流木被害から国民の生命・財産および重要交通網等の社会基盤を保全を図る。

活用可能な制度等

特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:紀伊山系砂防事務所】

課題対応:R

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 小中学校における土砂災害教育の実施
『御杖村の小学校で出前講座を実施』 〕

【実施状況】

<開催日>

令和5年5月25日(木) 10:40~12:20

<開催場所>

御杖小学校 多目的ホール3階

(奈良県宇陀郡御杖村大字菅野2470)

<参加者>

御杖小学校4~6年生 計11名



河川災害についての説明は『木津川上流河川事務所』が担当



土砂災害についての説明は『紀伊山系砂防事務所』が担当



実施主体
担当部署

紀伊山系砂防事務所
調査課 木津川上流河
川事務所 流域治水課

R5年度
進捗状況:

取組概要

木津川の上下流で事業を実施している木津川上流河川事務所と合同で、御杖小学校の生徒を対象に、土砂災害及び河川災害についての出前講座を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

ハザードマップを使って、避難所と自宅の位置、警戒区域の確認や実際の調査に使用しているドローンも紹介し、子供達ができるだけ関心を持てるように説明を行った。

取組による効果

自治体と連携し、小学校等で防災に関する出前講座を行うことで、土砂災害対策を自分事化し、防災意識の向上につなげる。

活用可能な制度等
特になし。

取組事例
(日本防災士会 奈良県支部)

被害対象を減少させるための対策

自主防災会や自治会、行政に対して、災害への備えの講演やアドバイスを実施
 メディア出演による防災啓発と広報活動
 『木津川流域においては「曽爾村」「奈良市佐保台」「田原地域」で実施』

【主な整備内容】

木津川流域(県内及び全国放送含む)における啓発や広報は下記
 ※木津川上流域(布目川、白砂川等)

- 1/26(木) 奈良市都祁中学校「全校生徒防災学習 マイ・タイムライン」
- 6/8(木) NHK奈良放送局「大雨への備え」
- 6/9(金) NHK奈良放送局「出水時の防災対応」
- 6/19(月) NHK奈良放送局「災害への備え」
- 6/25(日) NHK奈良放送局「キッズつげザー(都祁地区)取材」
- 7/16(日) 曽爾村役場「曽爾村防災訓練「マイ・タイムライン(土砂災害編)」
- 8/9(水) 奈良市「地区自主防災新任会長研修」
- 8/14(月) 台風7号による避難所開設を実施
- 8/15(火) 台風7号による避難所開設を実施
- 8/27(日) 奈良市佐保台地区「佐保台親子防災教室」
- 9/5(火) 奈良県自治連合会防災研修会「災害に備える(大雨編)」&マイ・タイムライン
- 10/21(土) NHK大阪放送局(全国放送)「関西発ラジオ深夜便出演」
- 10/22(日) 奈良新聞社「奈良県防災士会の特集記事」
- 10/29(日) 奈良市総合防災訓練「市民いっせい避難」
- 11/5(日) 奈良市田原地区防災訓練「日頃の備えとマイ・タイムライン」
- 12/12(火) 奈良テレビ放送局「取材」

その他大和川流域と吉野川流域で多数実施(年間100件程度)

実施主体 担当部署	御杖村 総務課	R5年度 進捗状況:
取組概要 防災講演・訓練、及びメディア出演による広報活動(を実施左記参照)。		
取組内容の工夫点・課題・留意点 都度タイムラインシートの印刷が大変なので、可能であれば「逃げキッド」を大量に頂きたい。		
取組による効果 防災意識の啓発。		
活用可能な制度等 特になし。		